

公表

## 事業所における自己評価結果\_放課後等デイサービス

事業所名	インクルーひたちなか教室
------	--------------

公表日 2025年 3月 25日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		活動内容に応じてスペースを使いわけを行い、安全に活動できる環境づくりを行っています。	利用人数や活動内容によってはスペースが限られるため、活動内容の工夫やレイアウトの見直しを継続していきます。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		利用児童の人数や特性に応じて職員の配置を調整し、個別対応が必要な場合にも対応できる体制を整えています。	特性が多様化しているため、職員の専門性向上や支援力の向上を図ります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		スケジュール提示や視覚的な支援を行い、子どもが見通しをもって活動に参加できるように環境を整えています。	個々の特性に応じた環境調整をより充実させる為、支援方法の共有や見直しを継続して行きます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日々の清掃や整理整頓を行い、子どもが安心して過ごせる清潔な環境づくりに努めています。	活動内容や利用人数によって環境が変化するため、安全面への配慮や環境整備を継続して行きます。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		必要に応じて落ち着いて過ごせるスペースを確保し、子どもの状態に合わせて利用できるように配慮しています。	個別対応が必要な場面も多いため、より落ち着いて過ごせる環境づくりを検討していきます。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		こまめな職員ミーティングで支援内容や業務について振り返りを行い、改善点を共有しながら業務改善に取り組んでいます。	より多くの職員が意見を出し合えるように、振り返りや情報共有の機会をさらに充実させていきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者向け評価表を実施し、保護者の意見や要望を把握するとともに、支援内容や業務改善に活かしています。	より多くの意見を把握できるように保護者との情報共有や意見交換の機会を増やしていきます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		定期的に職員ミーティングを実施し支援方法や児童対応について意見交換を行い、業務改善につなげています。	職員間の情報共有をより充実させ、支援方法の統一や支援の質の向上を図っていきます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	自己評価や保護者評価を実施し、結果をもとに事業所内で改善に向けた検討を行っています。	今後は第三者による外部評価の活用についても検討し、より客観的な視点での業務改善につなげていきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修への参加や事業所内研修を通して職員の支援力や専門性の向上に努めています。	研修内容を職員間で共有し、日々の支援により生かしていく取り組みをさらに充実させていきます。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		児童の発達段階や特性に合わせた支援プログラムを作成し活動の中で実践しています。	より効果的な支援になるよう、活動内容や支援方法の見直しを継続して行っています。

12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		児童一人ひとりの発達状況や保護者のニーズを把握するためにアセスメントを行いその内容を基に個別計画を作成しています。	今後も子供たちの成長や状況の変化を踏まえ、継続的にアセスメントを行いながら支援内容の見直しを行っていきます。
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援会議を通して職員間で情報共有を行い、子ども最善の利益を考えながら支援内容の検討を行っています。	より良い支援につなげる為、職員間での意見交換や情報共有の機会をさらに充実させていきます。
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		児童発達支援計画の内容を職員間で共有し、計画に沿った支援が行えるよう情報共有を行っています。	職員間での情報共有をより充実させ、支援内容の統一や支援の質向上を図っていきます。
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントを元に、日々の行動観察なども含めたアセスメントを行っています。	より適切な支援につなげる為、継続的な観察や情報共有を行いながらアセスメントの充実を図っていきます。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		保護者の思いや子供の状況を踏まえ、具体的な支援内容を設定し計画に反映しています。	今後も保護者や関係機関と連携しながら、より適切な支援内容の検討を行っていきます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員間で話し合いながら、子どもの発達や興味に合わせた活動プログラムを立案しています。	より多様な活動を取り入れられるよう、職員間の情報共有や研修を通して支援の幅を広げていきます。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		月ごとの活動内容を参考にしながら、子どもの状況に応じて活動内容を工夫しています。	子どもの成長や状況に応じて活動内容の見直しを行い、より効果的な支援となるよう検討していきます。
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		子どもの状況や特性に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。	今後も子どものニーズに応じた支援となるよう、活動内容の見直しや支援方法の工夫を行っていきます。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日のミーティング等で、支援の内容や役割分担を確認し、職員間で連携を図りながら支援を行っています。	今後も情報共有の時間を確保し、より円滑な連携体制を整えていきます。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後や翌日に、子どもの様子や支援内容について振り返りや情報の共有を行っています。	振り返りの内容を記録として残し、より具体的な支援改善につなげています。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	2	日々の支援内容や子供の様子について記録を取り、職員間で共有しながら支援の振り返りや改善につなげています。	記録内容をより支援の質向上につなげられるよう、職員間での共有や振り返りの機会をさらに充実させていきます。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを実施し、子どもの成長や状況の変化を把握しながら児童発達支援計画の見直しを行っている。また、保護者や職員間で情報共有を行いながら支援内容の検討を行っています。	今後も子どもの状況や保護者のニーズを踏まえながら、より適切な支援につなげられるよう内容の充実と計画の見直しを継続していきます。

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5		児童発達管理責任者や管理者等、子どもの状況をよく理解している職員が会議に参加し、日々の様子や支援内容について情報共有を行っています。また、関係機関と連携しながら適切な支援につなげていきます。	今後も関係機関との連携を継続し、子どもの状況や支援内容についてより丁寧な情報共有を行っていきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		必要に応じて関係機関との連携を図れるよう努めています。契約時、保護者にも丁寧な説明をしています。	今後も必要に応じて関係機関との連携を図り、子どもの健康面や発達面を踏まえた支援強化ができるよう努めています。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子どもの状況に応じて保育園や学校と情報共有を行いながら、併行利用や以降に向けた支援を行っています。また、関係機関との連携を図りながら子どもが安心して生活できるよう支援しています。	関係機関と連携を深め、相互理解を図りながら子どもの成長や生活の場の移行が円滑に進むように支援体制の充実に努めています。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		就学に向けて保護者や関係機関と連携し、子どもの状況や支援内容について情報共有を行い、安心して学校生活へ移行できるよう支援しています。	今後も換気機関や相談員との情報共有を継続し、円滑な就学移行に繋がる支援体制の充実に努めています。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	3		利用開始前に学校と連絡を取り、挨拶と送迎時の確認、情報共有の仕方の確認を行っています。	送迎時や電話連絡等、今後も必要に応じて情報共有を行っていきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		必要に応じて行っています。	今後も必要に応じて情報共有を行っていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		まだ対応しておりません。	卒業した子どもがまだいないので順次対応を検討していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		地域の児童発達支援センター等と情報共有を行い、助言を受けながら子どもの情報に応じた支援につなげられるよう努めています。	必要に応じて、助言受けながら子どもの状況に応じた支援につなげられるように努めています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		現在保育園等との交流活動は実施していないが、他教室との交流活動を実施し日々の活動内容を工夫しています。	今後は地域との関わりや交流の機会について検討し、子どもが地域の中で様々な経験が出来るよう取り組んでいきます。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5		送迎時や日々の連絡帳を通して、子どもの様子や活動内容を保護者に伝えるよう努めています。	保護者との情報共有をさらに充実させ、せり安心して利用していただけるように取り組んでいきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		現在家族支援プログラムや家族向け研修の実施は行っていないが、送迎時や面談等を通して保護者からの相談に応じ、家庭での関わり方などについて助言や享保共有を行っています。	今後は保護者支援の充実に努める為、家族が参加できる研修や情報提供の機会について検討していきます。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		契約時に丁寧に説明を行い、保護者に理解していただけるような説明を心がけています。	今後も保護者が安心して利用できるように、わかりやすい説明や情報提供に努めていきます。	

36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		保護者との面談等を通して子どもの状況や保護者の思いを確認し、子どもの最善の利益を優先しながら支援内容の検討を行っています。	今後も子どもや保護者の思いを大切にしながら、より丁寧な意思確認を行い、適切な支援計画の作成につなげていきます。
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者に提示しながら支援内容について説明を行い、内容を理解していただいたうえで同意を得る様に努めています。	今後も保護者が安心して利用できるよう、わかりやすい説明を心がけると共に、丁寧な情報共有に努めていきます。
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		送迎時や面談等を通して保護者からの相談に応じ、子どもの様子や家庭での関わり方について情報共有や助言を行っている。随時面談が可能な状況です。	今後も保護者が安心して相談できる環境づくりに努めるとともに、必要に応じて面談の機会を設けながら保護者支援の充実を図っていきます。
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者会を開催し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者同士が情報交換や交流できる機会を設けている。また、保護者が安心して相談できるように配慮しています。	今後は保護者同士の交流の機会を継続するとともに、兄弟児も含めた交流の機会について検討していきます。
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		相談や申し入れを受け付け、内容に応じて迅速かつ丁寧な対応を心がけている。また、必要に応じて職員間で情報共有を行いながら対応しています。	今後も子どもや保護者が安心して相談できる環境づくりを行い、迅速で適切な対応が出来る様体制の充実をはかっていきます。
41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		通信等(SNSやインスタ等)を通して活動内容や行事予定、子どもの様子などを保護者へ伝え、情報共有を行っています。	今後も保護者へわかりやすい情報発信を心がけ、事業所の活動内容について理解を深めていただけるように努めていきます。
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		個人情報の取扱いについて職員間で共有し、書類の管理や情報の取り扱いには十分配慮しながら適切に管理しています。	今後も個人情報保護に対する意識を高め、適切な管理と取扱いの徹底を図っていきます。
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		子どもの特性や状況に応じてわかりやすい言葉や視覚的な支援等を取り入れながら意思疎通を図るように努めている。また、保護者へも丁寧な説明を行い、情報共有を行っています。	今後も子どもや保護者の状況に応じたわかりやすい情報伝達を心がけ、より適切な意思疎通が図れるように取り組んでいきます。
44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		現在地域住民を招いた行事等は実施していないが、地域とのかかわりを意識しながら日々の活動を行っています。	今後は地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた事業所運営を目指して交流の機会等について検討していきます。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		各マニュアルを作成し、職員間で共有するとともに、必要に応じて保護者への周知を行っている。また、非常時を想定した訓練を実施し安全確保に努めています。	今後もマニュアル内容の確認や見直しを行い、非常時に備えた訓練の実施や職員間の共有を継続していきます。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		緊急時に備え、BCPを策定し、職員間で共有している。また、必要に応じて対応手順の確認や訓練を行い子どもや保護者の安全確保に努めています。	今後も定期的にBCPの内容を見直し、非常時対応の実効性を高めるとともに、職員や保護者への周知を徹底していきます。
47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		契約時に丁寧な聞き取りを行い、子どもの健康状態を確認している。また、必要に応じて、支援や緊急対応に活かしています。	保護者との連携を図り子どもの健康状態の把握を徹底し、受診や服用の経過や体調の変化に迅速に対応できる体制を維持・強化していきます。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		医師の指示や指導内容を保護者から聞き取り、職員間で共有して適切な対応を行っている。また、調理イベント等にも配慮し安全確保に努めています。	今後も定期的に確認する機会を設け、職員への周知や対応の徹底を図ることで、子どもの安全をより確実に守ります。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		安全計画を策定し、職員が安全管理の重要性を理解できるよう研修や訓練を定期的実施している。また、日常の活動や緊急時において安全確保が出来る体制を整えています。	今後も研修や訓練の内容を見直し、職員がより実践的に対応できるようにするとともに、計画の有効性を継続的に確認します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		子どもの安全確保のための取り組み内容を整理し、保護者へ周知している。必要に応じて、日常の対応や緊急時の対応についても丁寧に説明を行っています。	保護者が安全面で安心できるよう、周知方法や内容の充実を図り、わかりやすく伝える工夫を継続していきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		日々の活動の中でヒヤリハット事例を記録し、職員間で共有することで再発防止策を検討している。また、事例を基に安全管理の改善につなげています。	今後もヒヤリハットの記録・共有体制を強化し、職員全員が安全管理意識を高めるとともに、再発防止策をさらに徹底していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		虐待防止に関する職員研修や情報共有を定期的に行い、子どもの権利を尊重した支援を徹底している。また、日々の観察や記録を通して子どもが安心・安全に過ごせる環境づくりに努めています。	今後も研修や職員間での情報共有を継続し、虐待防止の意識を高めるとともに、支援体制の適正化を図ります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		身体拘束を行う場合は、原則禁止を基本とし、やむ負えない場合のみ組織で協議・決定したうえで、事前に保護者や子どもに内容や理由を説明している。また、職員間で手順や注意点を共有し安全確保と権利尊重を徹底しています。	今後も身体拘束が必要となる状況を未然に防ぐ支援方法の検討を続けるとともに、説明方法や情報共有の体制をさらに充実させていきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		虐待防止に関する職員研修や情報共有を定期的に行い、子どもの権利を尊重した支援を徹底しています。また、日々の観察や記録を通して子どもが安心・安全に過ごせる環境づくりに努めています。	今後も研修や職員間での情報共有を継続し、虐待防止の意識を高めるとともに、支援体制の適正化を図ります。

事業所名		インクルーひたちなか教室				公表日	2026年 3月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動内容に応じてスペースを使いわけを行い、安全に活動できる環境づくりを行っています。	利用人数や活動内容によってはスペースが限られるため、活動内容の工夫やレイアウトの見直しを継続していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	利用児童の人数や特性に応じて職員の配置を調整し、個別対応が必要な場合にも対応できる体制を整えています。	特性が多様化しているため、職員の専門性向上や支援力の向上を図ります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		スケジュール提示や視覚的な支援を行い、子どもが見通しをもって活動に参加できるように環境を整えています。	個々の特性に応じた環境調整をより充実させる為、支援方法の共有や見直しを継続して行きます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々の清掃や整理整頓を行い、子どもが安心して過ごせる清潔な環境づくりに努めています。	活動内容や利用人数によって環境が変化するため、安全面への配慮や環境整備を継続して行きます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて落ち着いて過ごせるスペースを確保し、子どもの状態に合わせて利用できるよう配慮しています。	個別対応が必要な場面も多いため、より落ち着いて過ごせる環境づくりを検討していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	こまめな職員ミーティングで支援内容や業務について振り返りを行い、改善点を共有しながら業務改善に取り組んでいます。	より多くの職員が意見を出し合えるように、振り返りや情報共有の機会をさらに充実させていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表を実施し、保護者の意見や要望を把握するとともに、支援内容や業務改善に活かしています。	より多くの意見を把握できるように保護者との情報共有や意見交換の機会を増やしていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的に職員ミーティングを実施し支援方法や児童対応について意見交換を行い、業務改善につなげています。	職員間の情報共有をより充実させ、支援方法の統一や支援の質の向上を図っていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		自己評価や保護者評価を実施し、結果をもとに事業所内で改善に向けた検討を行っています。	今後は第三者による外部評価の活用についても検討し、より客観的な視点での業務改善につなげていきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		研修への参加や事業所内研修を通して職員の支援力や専門性の向上に努めています。	研修内容を職員間で共有し、日々の支援により生かしていく取り組みをさらに充実させていきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		児童の発達段階や特性に合わせた支援プログラムを作成し活動の中で実践しています。	より効果的な支援になるよう、活動内容や支援方法の見直しを継続して行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		児童一人ひとりの発達状況や保護者のニーズを把握するためにアセスメントを行いその内容を基に個別計画を作成しています。	今後も子供たちの成長や状況の変化を踏まえ、継続的にアセスメントを行いながら支援内容の見直しを行っていきます。	

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援会議を通して職員間で情報共有を行い、子ども最善の利益を考えながら支援内容の検討を行っています。	より良い支援につなげる為、職員間での意見交換や情報共有の機会をさらに充実させていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		児童発達支援計画の内容を職員間で共有し、計画に沿った支援が行えるよう情報共有を行っています。	職員間での情報共有をより充実させ、支援内容の統一や支援の質向上を図っていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントを元に、個々の行動観察なども含めたアセスメントを行っています。	より適切な支援につなげる為、継続的な観察や情報共有を行いながらアセスメントの充実を図っていきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		保護者の思いや子供の状況を踏まえ、具体的な支援内容を設定し計画に反映しています。	今後も保護者や関係機関と連携しながら、より適切な支援内容の検討を行っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員間で話し合いながら、子どもの発達や興味に合わせた活動プログラムを立案しています。	より多様な活動を取り入れられるよう、職員間の情報共有や研修を通して支援の幅を広げていく必要がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月ごとの活動内容を参考にしながら、子どもの状況に応じて活動内容を工夫しています。	子どもの成長や状況に応じて活動内容の見直しを行い、より効果的な支援となるよう検討していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		子どもの状況や特性に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。	今後も子どものニーズに応じた支援となるよう、活動内容の見直しや支援方法の工夫を行っていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日のミーティング等で、支援の内容や役割分担を確認し、職員間で連携を図りながら支援を行っています。	今後も情報共有の時間を確保し、より円滑な連携体制を整えていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後や翌日に、子どもの様子や支援内容について振り返りや情報の共有を行っています。	振り返りの内容を記録として残し、より具体的な支援改善につなげていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の支援内容や子供の様子について記録を取り、職員間で共有しながら支援の振り返りや改善につなげています。	記録内容をより支援の質向上につなげられるよう、職員間での共有や振り返りの機会をさらに充実させていきます。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを実施し、こどもの成長や状況の変化を把握しながら児童発達支援計画の見直しを行っている。また、保護者や職員間で情報共有を行いながら支援内容の検討を行っています。	今後も子どもの状況や保護者のニーズを踏まえながら、より適切な支援につなげられるように内容の充実と計画の見直しを継続していきます。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者や管理者等、子どもの状況をよく理解している職員が会議に参加し、日々の様子や支援内容について情報共有を行っている。また、関係機関と連携しながら適切な支援につなげています。	今後も関係機関との連携を継続し、子どもの状況や支援内容についてより丁寧な情報共有を行っていきます。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて関係機関との連携を図れるよう努めている。契約時、保護者にも丁寧な説明をしています。	今後も必要に応じて関係機関との連携を図り、子どもの健康面や発達面を踏まえた支援強化ができるよう努めていきます。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		子どもの状況に応じて保育園や学校と情報共有を行いながら、併行利用や以降に向けた支援を行っている。また、関係機関との連携を図りながら子どもが安心して生活できるよう支援しています。	関係機関と連携を深め、相互理解を図りながら子どもの成長や生活の場の移行が円滑に進むように支援体制の充実を図っていきます。	

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学に向けて保護者や関係機関と連携し、子どもの状況や支援内容について情報共有を行い、安心して学校生活へ移行できるよう支援しています。	今後も換気機関や相談員との情報共有を継続し、円滑な就学移行に繋がる支援体制の充実を図っていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	地域の児童発達支援センター等と情報共有を行い、助言を受けながら子どもの情報に応じた支援につなげられるよう努めています。	必要に応じて、助言受けながら子どもの状況に応じた支援につなげられるように努めていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	現在保育園等との交流活動は実施していないが、他教室との交流活動を実施し日々の活動内容を工夫しています。	今後は地域との関わりや交流の機会について検討し、子どもが地域の中で様々な経験が出来るよう取り組んでいきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や日々の連絡帳を通して、子どもの様子や活動内容を保護者に伝えるよう努めています。	保護者との情報共有をさらに充実させ、世り安心して利用していただけるよう取り組んでいきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	現在家族支援プログラムや家族向け研修の実施は行っていないが、送迎時や面談等を通して保護者からの相談に応じ、家庭での関わり方などについて助言や享保共有を行っています。	今後は保護者支援の充実を図る為、家族が参加できる研修や情報提供の機会について検討していきます。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧に説明を行い、保護者に理解していただけるような説明を心がけています。	今後も保護者が安心して利用できるように、わかりやすい説明や情報提供に努めていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者との面談等を通して子どもの状況や保護者の思いを確認し、子どもの最善の利益を優先しながら支援内容の検討を行っています。	今後も子どもや保護者の思いを大切にしながら、より丁寧な意思確認を行い、適切な支援計画の作成につなげていきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		保護者に提示しながら支援内容について説明を行い、内容を理解していただいたうえで同意を得る様に努めています。	今後も保護者が安心して利用できるよう、わかりやすい説明を心がけると共に、丁寧な情報共有に努めていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時や面談等を通して保護者からの相談に応じ、子どもの様子や家庭での関わり方について情報共有や助言を行っている。随時面談が可能な状況です。	今後も保護者が安心して相談できる環境づくりに努めるとともに、必要に応じて面談の機会を設けながら保護者支援の充実を図っていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会を開催し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者同士が情報交換や交流できる機会を設けている。また、保護者が安心して相談できるように配慮しています。	今後は保護者同士の交流の機会を継続するとともに、兄弟児も含めた交流の機会について検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談や申し入れを受け付け、内容に応じて迅速かつ丁寧な対応を心がけている。また、必要に応じて職員間で情報共有を行いながら対応しています。	今後も子どもや保護者が安心して相談できる環境づくりを行い、迅速で適切な対応が出来る様体制の充実をはかっていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		通信等(SNSやインスタ等)を通して活動内容や行事予定、子どもの様子などを保護者へ伝え、情報共有を行っています。	今後も保護者へわかりやすい情報発信を心がけ、事業所の活動内容について理解を深めていただけるように努めていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取扱いについて職員間で共有し、書類の管理や情報の取り扱いには十分配慮しながら適切に管理しています。	今後も個人情報保護に対する意識を高め、適切な管理と取扱いの徹底を図っていきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		子どもの特性や状況に応じてわかりやすい言葉や視覚的な支援等を取り入れながら意思疎通を図るよう努めている。また、保護者へも丁寧な説明を行い、情報共有を行っています。	今後も子どもや保護者の状況に応じたわかりやすい情報伝達を心がけ、より適切な意思疎通が図れるよう取り組んでいきます。

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	現在地域住民を招いた行事等は実施していないが、地域とのかかわりを意識しながら日々の活動を行っています。	今後は地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた事業所運営を目指して交流の機会等について検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを作成し、職員間で共有するとともに、必要に応じて保護者への周知を行っている。また、非常時を想定した訓練を実施し安全確保に努めています。	今後もマニュアル内容の確認や見直しを行い、非常時に備えた訓練の実施や職員間の共有を継続していきます。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		緊急時に備え、BCPを策定し、職員間で共有している。また、必要に応じて対応手順の確認や訓練を行い子どもや保護者の安全確保に努めています。	今後も定期的にBCPの内容を見直し、非常時対応の実効性を高めるとともに、職員や保護者への周知を徹底していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に丁寧な聞き取りを行い、子どもの健康状態を確認している。また、必要に応じて、支援や緊急対応に活かしています。	保護者との連携を図り子どもの健康状態の把握を徹底し、受診や服用の経過や体調の変化に迅速に対応できる体制を維持・強化していきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		医師の指示や指導内容を保護者から聞き取り、職員間で共有して適切な対応を行っている。また、調理イベント等にも配慮し安全確保に努めています。	今後も定期的に確認する機会を設け、職員への周知や対応の徹底を図ることで、子どもの安全をより確実に守ります。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を策定し、職員が安全管理の重要性を理解できるよう研修や訓練を定期的に行っている。また、日常の活動や緊急時において安全確保が出来る体制を整えています。	今後も研修や訓練の内容を見直し、職員がより実践的に対応できるようにするとともに、計画の有効性を継続的に確認します。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		子どもの安全確保の取り組み内容を整理し、保護者へ周知している。必要に応じて、日常の対応や緊急時の対応についても丁寧に説明を行っています。	保護者が安全面で安心できるよう、周知方法や内容の充実を図り、わかりやすく伝える工夫を継続していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		日々の活動の中でヒヤリハット事例を記録し、職員間で共有することで再発防止策を検討している。また、事例を基に安全管理の改善につなげています。	今後もヒヤリハットの記録・共有体制を強化し、職員全員が安全管理意識を高めるとともに、再発防止策をさらに徹底していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止に関する職員研修や情報共有を定期的に行い、子どもの権利を尊重した支援を徹底している。また、日々の観察や記録を通して子どもが安心・安全に過ごせる環境づくりに努めています。	今後も研修や職員間での情報共有を継続し、虐待防止の意識を高めるとともに、支援体制の適正化を図ります。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		身体拘束を行う場合は、原則禁止を基本とし、やむ負えない場合のみ組織で協議・決定したうえで、事前に保護者や子どもに内容や理由を説明している。また、職員間で手順や注意点を共有し安全確保と権利尊重を徹底しています。	今後も身体拘束が必要となる状況を未然に防ぐ支援方法の検討を続けるとともに、説明方法や情報共有の体制をさらに充実させていきます。	

事業所名		インクルーひたちなか教室				公表日	2026年 3月 25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・運営・体制整備	1 訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。		○	子どもの発達段階や課題によりあった教具・教材を選定し、目的に応じて使い分けられるように見直しが必要	他教室間で共有し、より実践的な教具・教材を使用していく		
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用希望者数に応じて職員配置を調整し、無理のない支援体制を整えている。	冬季など、季節やタイミングによって欠員が出た場合の対応は常に念頭に置いておく必要がある。		
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		目標設定や振り返りを職員間で共有し、業務改善に向けた意見交換を行っている。	継続的に情報共有等により参画する環境へと意図して行く必要がある		
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を活用し、寄せられた意見を支援内容に反映している。	周知するのみでなく全職員が共通認識で対応していく必要がある		
	5 従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員から意見を出しやすい環境を整え、業務改善に活かしている。	従業員の意見をしっかりと受け取れる環境を整えていく必要がある。		
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価を導入し、客観的な視点からの評価を業務改善につなげる必要がある。	定期的な評価を受けとり、改善のための話し合いの機会を設けるとよい。		
	7 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や法人研修への参加機会を確保し、職員の専門性向上を図っている。	随時必要な研修を追加しより盤石な体制を心掛けていきたい。		
適切な支援の提供	8 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを丁寧に行い、子どもと保護者のニーズを踏まえた支援計画を作成している。	アセスメントを取る際のコミュニケーションをより深めていき、常に寄り添える環境作りを目指したい。		
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		関わる職員間で情報共有を行い、子どもの最善の利益を考慮した検討をしている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。		
	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○		訪問先施設と連携し、担任等の意向を支援計画に反映している。	日程調整が難しい時期の訪問先行事等を把握する。		
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を職員間で共有し、計画に基づいた支援を行っている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。		
	12 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		行動観察等を通して、子どもの適応行動を多面的に把握している。	日々の療育においても職員間の共有などによってより深くバランスのとれた視点で行う。		
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインを踏まえ、具体的にわかりやすい支援内容を設定している。	事業の頻度が上がった際にも多角的な具体性のある内容を意図していく。		
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を共有し、日々の支援に配慮していく。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に必ず打ち合わせを行い、役割分担を明確にして支援を行っている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。		
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に振り返りを行い、気づきを次回支援に活かしている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。			

関係機関や保護者との連携	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		訪問先施設の理念や支援方法を尊重し、連携を大切にしている。	支援において一方的な見方にならないよう訪問先の理念や支援方法に寄り添った支援を意図していく。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○		日々の支援について具体的な記録を残し、支援の検証・修正・改善等へ繋げていく。	職員間での共有等、視点を変えた検証、改善にも心掛ける。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行い、必要に応じて支援計画を見直している。	保護者や訪問先の意向をしっかりと受け取れるよう関係を密にして意見をくみ取っていく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議が行われる際は参画している。	職員間の共有により人員的にもゆとりある参画を目指す。
	21	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携し、地域全体で支援できる体制を整えている。	様々な家庭環境の事例を扱うため、どの機関と連携を深めていくべきかを予め調べて周知しておくことが大切。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就園・就学時に情報共有を行い、切れ目のない支援に繋げている。	情報共有、相互理解を深めていけるよう環境を整えていく。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修への参加機会を増やし、支援の質の向上を図る必要がある。	定期的な外部研修、専門機関からの助言を受けられるよう体制を整えていく。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		地域の協議会等へ参加し、地域連携や情報共有を深める必要がある。	各地域との連携を深め、参画する場を把握しておく。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日常的に保護者と情報共有を行い、子どもの状況について共通理解を図っている。	事業所側が伝える一方にならないよう配慮して情報共有し、寄り添い、ヒアリングするよう意図する。
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族支援プログラムや研修情報の提供など、家族支援が充実するように努めている。	必要なサポートができるよう日頃から視野を広げて研修機会を検討する。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規定や利用者負担について、丁寧に説明している。	利用者の心的な負担にも配慮し丁寧に説明する。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○		訪問先施設に対し、事業の趣旨や目的を分かりやすく説明している。	周知されていない地域においては、他地域で行っている実績等を伝え理解を得ていく。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもや保護者の意向を確認し、意思を尊重した計画を作成している。	「子どもの最善の利益」の優先考慮の観点を訪問先、保護者とも共通認識の上で進めていく。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○		計画内容を説明し、保護者の同意を得た上で支援を行っている。	支援内容の説明を丁寧にやっていく。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談に応じ、必要な助言や支援を行っている。	保護者がより話しやすい関係性を築いていく。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者同士やきょうだい同士が交流できる機会づくりを検討する必要がある。	保護者同士の交流の機会もさらに検討していく。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談対応の体勢を整え、迅速な対応を心がけている。	日々の業務を効率的に行い、ゆとりをもって対応できる体制を心掛ける。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNS等を活用し、情報発信を行っている。	今後もより一層理解を深めていけるよう発信をしていく。

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理を徹底し、職員間で注意喚起を行っている。	全職員共通認識で情報の扱いを留意していく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意思疎通や情報伝達に配慮し、分かりやすい対応を行っている。	どのような状況の保護者であっても配慮を欠かすことなく支援を行う。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○		訪問支援以外の相談にも対応できる体制を整えている。	信頼を得る活動を通して、様々なケースでの対応など求めに応じて必要な対応ができるよう日々研鑽を深める。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○		支援後に訪問先と電話等の連絡を取り合い振り返りを行っている。	支援後に行う一連の流れをしっかりと身に付けていく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○		支援内容を保護者へ丁寧に共有している。	記録や日々の交流において小まめな情報共有をしていく。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについて、十分に留意している。	情報の取り扱いにおいては、全職員にしっかりと周知していく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○		信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っている。	適切な助言、支援ができるよう常に寄り添って支援していく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し職員へ周知している。	定期的にマニュアルの読み返し等を行う。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、研修や訓練を実施している。	研修報告等でしっかりと確認、管理していく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを共有し、再発防止に努めている。	ヒヤリハットの結果のみにフォーカスせず、代替案の提示、改善策に焦点を合わせていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を実施し、意識向上を図っている。	以後も定期的に機会を確保していく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束に関する方針を明確にし、事前説明と計画への記載を行っている。	細かいシチュエーションを事例として差し出しながらしっかりと確認を取っていく。